

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	オンライン高岡			
○保護者評価実施期間	2026年2月2日 ~ 2026年2月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2026年2月2日 ~ 2026年2月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の支援の質と子ども・保護者との信頼関係の構築	毎日のミーティングによる情報共有、支援記録の徹底、SNS等を活用したこまめな連絡により、子どもの様子や支援内容を速やかに共有している。保護者からも「連絡がまめで安心できる」「相談に乗ってもらえてありがたい」等の声があり、安心感のある通所環境づくりに努めている。	記録や連絡内容をチームで定期的に振り返り、支援の質の標準化と好事例の共有を進める。保護者面談の機会を計画的に設定し、家庭での取組につながる助言も強化する。
2	安全管理・衛生管理と安心して過ごせる環境整備	玩具や車両の消毒、アレルギー確認のダブルチェック、各種マニュアル整備や避難訓練の実施など、安全面・衛生面への配慮を継続している。保護者からも安全面への信頼や送迎時の安心感について肯定的な評価が多い。	ヒヤリハットの振り返りを定例化し、再発防止策を具体化・共有する。訓練内容の記録と検証を行い、より実践的な危機対応力の向上を図る。
3	子どもが安心して過ごせる居場所づくりと通所意欲の維持・向上	子ども一人ひとりの特性に配慮し、クールダウンできるスペースの確保や、無理のない活動設定を行うことで、安心して過ごせる環境づくりに努めている。保護者評価においても「安心感をもって通所している」「通所を楽しみにしている」「支援に満足している」といった回答が多く、子どもが落ち着いて通える居場所としての役割を果たしている。	子どもの興味・関心をより丁寧に把握し、成功体験を積み重ねられる活動設定を増やすことで、通所意欲や自己肯定感のさらなる向上につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動プログラムの固定化と地域交流・集団活動の弱さ	生活リズムの安定を優先する中で、活動が習慣化・固定化しやすく、地域交流や多様な集団活動の機会が十分に確保できていない。保護者からも「いつも同じことをしているように見える」「交流の実感が少ない」との意見がある。	定期的に活動テーマを設定し、制作活動や外部資源の活用などプログラムのバリエーションを拡充する。交流の目的と方法を明確にし、活動と交流の場面を分けるなど構成を工夫する。
2	家族支援(ペアレントトレーニング等)や情報交換の機会の不足	日常支援や個別対応を優先する中で、家族向けの体系的な支援プログラムや研修・交流の場の企画まで十分に手が回っていない。保護者からも「家族への支援内容が分かりにくい」「情報交換の場が欲しい」との声がある。	小規模でも定期的な保護者向け勉強会や情報共有会を企画し、家庭での関わり方のヒントを提供する機会を検討する。SNSなどで家族支援の取組内容を見る化することについても工夫が必要である。
3	職員体制・研修体制の安定と質の向上	感染症拡大時に配置が厳しくなることや、新任職員への研修の質・量ともに見直しが必要であり、経験や支援スキルにばらつきが生じやすい。	より一層の予備人員の確保やシフト体制の見直しを検討するとともに、OJTと外部研修を組み合わせた計画的な研修体系を整備し、支援の質の均一化と底上げを図る。